



『東北圏だより』

三陸鉄道 全線運行再開！

岩手県



▲運行再開時の盛駅（大船渡市）

三陸鉄道は、東日本大震災により甚大な被害を受けましたが、復旧工事が順調に進み、本年4月6日に全線で運行を再開しました。これもひとえに、全国の皆様からのご支援のお陰であり、感謝申し上げます。

全線の運行再開に合わせて、今回、クウェート国の支援により製造された新型車両5両が新たに運行を開始しました。新車両の一つ「新お座敷車両」は「三陸の技まるごと博物館」をテーマに、岩手の伝統工芸品（漆、南部鉄器等）をイメージした重厚なデザインとなっております。一般の新車両も窓の大型化、座席クッションの向上など、より快適さを増しており、県内からの観光客に三陸の旅を満喫していただけるものと期待しています。

沿線住民の長年に亘る悲願の末に建設された三陸鉄道は、地域住民の重要な足であると同時に、観光をはじめとする地域産業の活性化に必要な不可欠な社会基盤であり、今後の三陸復興を力強く推進していく原動力でもあります。

岩手県では、今年度を「本格復興推進年」と位置付け、被災者一人ひとりが安心して生活を営むことができるよう復興への取組を加速化していくこととしています。県としては引き続き、利用促進などを図りながら、地域の宝である三陸鉄道を沿線市町村とともに支援していきます。

全線運行再開を果たした三陸鉄道は、奇しくも今年で開業 30 周年目を迎えます。三陸地方においての際はぜひご利用いただくとともに、新たにスタートした三陸鉄道の応援をこれからもよろしくお願い致します。

【三鉄イベント列車の概要】

(1) お座敷列車・こたつ列車

列車内を畳敷き・座卓に改造し、夏は「お座敷列車」、冬は「こたつ列車」として運行。お座敷列車内でアテンダントが海女の姿で販売する「うに丼」も好評。

(2) 震災学習列車

三陸鉄道の車窓から被災状況、復興状況、課題等を学んでもらうもの。車両貸切とし、三陸鉄道社員が車内で被災状況等を説明。昨年度は 146 団体 6,571 名が参加。

(3) 新車両の導入

クウェート国の支援をもとに8両（平成 25 年3両、26 年5両）の車両を新造。普通車両3両とレトロ車両1両が南リアス線で、普通車両3両と新お座敷車両が北リアス線で活躍中。

三陸鉄道



▲新お座敷車両（さんりくはまかぜ）



▲「あまちゃん」ロケ地にもなった 堀内駅（普代村）



▲新レトロ車両



▲お座敷列車内

【手づくり郷土賞】個性的で魅力ある地域づくりを表彰します

東北地方整備局

全国各地において、地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を、好事例として広く紹介することで、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目指し、「手づくり郷土賞^{ふるさと}」として表彰しています。「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、今年度で29回目の開催となる国土交通大臣表彰制度です。昨年度、東北地方整備局管内からは、山形県鶴岡市『山王商店街「みち広場」の整備と運営による賑わいづくり ～デイバザール、ナイトバザール、夢やたい』（鶴岡山王商店街振興組合）が受賞いたしました。この取組は、20年以上続けてきたナイトバザールを発展させ、活気ある商店街を取り戻そうと、市の街路事業と合わせて、住民とまちづくりワークショップを重ねながら、ハード面の改善やソフト面を連携させることにより、賑わいを取り戻すことができた点を高く評価されての受賞となりました。

今年度は、9月1日締め切りで募集しておりますので、身近に応募できる取り組み等がございましたら、ぜひ応募をお待ちしています。

手づくり郷土賞ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/B00097/K00360/tezukurifurusato/index.html>

平成26年度「手づくり郷土賞^{ふるさと}」募集

募集期間：平成26年6月27日～平成26年9月1日 主催：国土交通省

第29回

地域の魅力や個性を創出している、
良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動による
郷土づくりの取組を募集します！

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞^{ふるさと}」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。「手づくり郷土賞^{ふるさと}」は昭和61年度に創設され、平成26年度で29回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

募集対象

一般部門

地域の魅力や個性を創出している、社会資本*及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

*原則として社会資本は国土交通省が所管するもの

大賞部門

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果
(たとえば、これまでに受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含み内容が更に充実している成果、これまでに受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を核とした周辺エリアを含む成果など)

応募方法

■応募団体（各部門共通）

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）との共同で応募するものとします。

■応募資料

- ① 応募用紙及び参考資料とその電子データ
- ② 自己PR映像（動画、音声付きパワーポイントもしくは静止画スライドショー）

※応募要領及び応募用紙については、国土交通省ホームページよりダウンロードしてください。
(http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/te dukuri/what_furusato/what_furusato.html)

■応募方法

応募資料を、募集期間内にお近くの各地方整備局等に提出してください。
提出された応募資料は各地方整備局等にて取りまとめの後、国土交通本省に提出されます。「手づくり郷土賞」の対象とならないものがあつた場合は、各地方整備局等より、その旨通知いたします。

応募、選定スケジュール

平成26年6月27日
募集開始

平成26年9月1日
募集締め切り

平成26年10月～12月
選定委員会
開催

平成27年1月～
選定結果の発表
認定証授与式

平成25年度 手づくり郷土賞一般部門受賞 山形県鶴岡市鶴岡山王商店街振興組合の取組



▲融雪設備の整備により、
冬でも雪のない商店街へ



▲無電柱化や車道を狭めて、
広い歩道へ



▲デイバザールの様子



▲ナイトバザールの様子

東北・歴史まちづくり担当者会議が開催されました

東北地方整備局・福島県

「歴史まちづくり」とは、城や神社・仏閣等の歴史的価値が高い建造物を所有する地域、また、その歴史や伝統を反映した人々の生活や環境の維持・向上を図っていくことを通じ、魅力的で後世に継承できるまちづくりを目的としています。

現在、東北管内では、青森県弘前市、福島県白河市、宮城県多賀城市、そして山形県鶴岡市の4市が歴史まちづくりの認定（歴史的風致維持向上計画の認定）を受け、それぞれが、地域の特性や特色を生かした歴史まちづくりに取り組んでいます。

今般、歴史まちづくりに取り組みたい、または、興味をもっている東北管内の県・市町村の職員等を対象に、歴史まちづくりの知識・知見を深めるための担当者会議が、6月4日～5日にかけて、福島県の白河市及び国見町で開催されました。（30を超える県・市町村から、約100名の方々が参加されました。）

会議（白河市文化センター）では、先行する白河市や鶴岡市の取り組み事例等の紹介、歴史まちづくり法を所管する文化庁・国土交通省からは、文化財の保護活用のための施策や法制度の説明、全国の歴史まちづくりの事例紹介等の話がされました。

また、白河市、鶴岡市及び、現在、計画策定に取り組む国見町を交えて、歴史まちづくりに取り組むことに至った経緯や、計画が認定された後の効果といったことについて、ディスカッションが行われました。

2日目は、白河市における歴史まちづくりの取り組み事例を見学、その後、国見町の文化財等を見学し、計画策定中の様子を伺いました。

本会議は新聞やテレビのニュースでも取り上げられ、注目度も大きなものとなったようです。今後、東北の各市町村が、歴史まちづくりに取り組むにあたり、大いに参考になったものと思います。



▲文化庁、国土交通省からの講話



▲3市町によるディスカッション



▲国見町・阿津賀志山防塁
(下二重堀地区) (国指定史跡)



▲国見町・奥山家住宅
(国登録有形文化財)



▲白河市・中町蔵活用事業
(中町小路・楽蔵(らくら))

編集後記

先日、天気ニュースを見ていたところ、今年の夏の天候について、『西暑北冷』という予報から『北冷』が取れて、北日本の夏の天候は平年並みの予報になったと報道されておりました。近年の夏は猛暑だったため、久しぶりに涼しい夏がやってくるかと思いましたが、やはり今年の夏も暑いようです。暑ければ暑いなりに楽しいことありますが、熱中症には気をつけたいものです。

さて、今月号では、三陸鉄道の全線運行再開、手づくり郷土賞、東北・歴史まちづくり担当者会議について、紹介させて頂いております。

引き続き、皆様からの情報提供やご協力をお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp